

## 豊能町総合まちづくり計画審議会（第5回）議事概要

日 時：令和3年7月20日（水）午前10時00分～11時48分

場 所：豊能町役場2階 大会議室

出席者：委員13名、事務局3名

傍聴者：5名

### 1. 《議事》豊能町総合まちづくり計画【基本構想】案について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

①豊能町総合まちづくり計画【基本構想】案について（資料1）

②豊能町総合まちづくり計画【基本構想】案 変更点（参考資料）

(2) 主な質疑、意見

[会 長] P.27～29 の基本施策が、前回指摘のところで手直しできていないところがあるように思う。

(事務局) 基本計画を検討した後、その内容を反映して修正したい。

[委 員] 土地利用構想で、田園交流・就農移住促進ゾーンの国道沿いが、沿道整備・産業誘致ゾーンとなっているところがあるが、牧地区と高山地区で農空間整備事業が進められている。この事業はだいたい5年かかる。補助金の適正化法を考えると、計画期間中の10年間には何もできないのではないか。

(事務局) 景観を壊すようなものにならないよう、ゾーニングをして大きな方向性を示している。個別の事案が出てきたときに、計画の範囲の中で検討していくことになる。農空間整備事業を進めている地域でも、個別の事業に沿った形で進めていくことになる。

[委 員] 交通アクセスの問題。東側の茨木方面には、新名神高速道路の茨木千提寺ICと名神高速道路の茨木ICがある。茨木市側の道路整備を促進していくべき。多方面に門戸を開けることで、産業誘致や人の流れが変わってくるところがある。

(事務局) 土地利用構想「①基本的な考え方」のところで考えていきたい。

### 2. 《議事》豊能町の将来像案について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

- ①豊能町のスマートシティに向けた取り組みについて（追加資料1）
- ②将来のまちづくりに向けた考え方の整理（追加資料2）
- ③豊能町総合まちづくり計画 将来像案について（資料2）

(2) 主な質疑、意見

[会 長] 数回にわたって審議してきているが、将来像を議論する時にいくつか考えておかないといけないことがある。例えば、少なくとも3、4年先に具体的に何をするかが見えてこない、単なる将来像に終わる。基本計画を積み重ねるにあたって将来像に向かってみんなが取り組んでいけるようなものでないといけない。抽象的な言葉だけでは力が結集できない。もう一つ、町域が東西に大きく分かれおり、一体的なまちという形になっていない。もっと融合し違うものを作って行って、そこに新しい今までになかったような姿を作っていくかないと豊能町は難しいのではないか。ニュータウンの空き家活用や流通促進と、まちの魅力が出るような施策をやることは、他の都市でもやっていることで、簡単に成果が出るものではない。もっと豊能町自体が変わっていくかないといけない。それが新しい価値をつくるということ。新しい豊能町の姿を象徴するものが将来像でないと、みんなが力を合わせ、意識を高めて、力を結集するという方向に向かわないと、将来像が自主的な意味を持たないと考えている。そういう形でご意見いただきたい。

[委 員] 基本的な考え方の整理は会長の言うとおりでと思う。ただ、施策体系の柱である「ひとづくり・しごとづくり・まちづくり」が分かるような将来像にしてほしい。

[委 員] 住民のモチベーションが上がって、このまちに住み続けたいと思うプランを作っていきたい。「将来のまちづくりに向けた考え方の整理（追加資料2）」の2極的なまちから融合的なまちへと言うのは、素晴らしいと思う。

[会 長] 融合するというのは実際にどうするかを考えないといけない。まちの将来を考えた時に、現状のままでなく、思い切ってジャンプするぐらいの変わり方をしないといけない。沿道整備・産業誘致ゾーンにも期待するところだが、役場のある周辺、ここを地域の核として、ワークスペースやリモートワークという新しい概念を取り入れ、新しい生活様式に対応した働き方の提案をできるような場所を作っていくと、それをサポートするサービス業も必要になってくる。そうすると豊能町の新しい構造が見えてくる。今は西地区の能勢電鉄沿線がキーになっており、東地区に活動が集積していないため、そういうアプローチの需要が育たない。

もう一つ考えないといけないことが、豊能町は大阪の端にあるというのがこれまでの認識の中心。そうではなく、亀岡方面は大阪から北へいく一つの

きな玄関、入口である。京都府は北側にも力を入れている。そういう所とつながることによってエネルギーを取り込むことができる。亀岡、北摂の北、南の三方向のルートを育てていくと、まちのポジションがかなり変わってくるので、新しい未来が見えてくる。

〔委員〕 スマートシティにしても、ある程度のことをやらないと、中途半端なことでは効果が出てこないと思う。データをAIが解析してまちをつくっていくような感じだと思うが、個人情報などがどんどん出てこないと本当のスマートシティはできない。一方、融合と書いているが、農村コミュニティ、人のつながりというのは、人間の心の問題である。高齢化が進んでおり60歳以上が一番多い年代になる。今まで心のつながりで生きてきた人が、スマートシティと言われてもついていけない。10年で理解できるのか。

〔会長〕 委員のご意見は、将来像だけでなく、これからの大きな壁である。現場の問題がありながらも、急速にやらないといけない形になる。なかなか難しい時代。行政がデジタルデバインド解消をしっかりとやっていく必要があるかも。

〔委員〕 基本の考え方の中で、人口減少を食い止めるのはそのとおりだが、今いる人だけを念頭においたまちづくりや総合計画では困る。高齢者が半分近くになり、まだ人口減少が続いている。何か新しいものを生むとか、新しい人が来てくれないと目標人口も実現しない。ニュアンスとして「新しい人を迎え入れる」ということを念頭においてほしい。今いる人だけが幸せになるのではなく、将来もっと楽しいこと、面白いことが起こるようなまちにすることで、本当に住み続けられるまちになると思う。そういうものがにじみ出るような将来像にしてほしい。

〔委員〕 同意。今住んでいる住民の意見だけでなく、どうしたら住んでもらえるのか、広い視点、魅力を創出する工夫がないと、人口減少はどうにもならないと思う。

〔会長〕 豊能町に来てくれる人たちが増え、「豊能町悪くないよね、住んでもいいよね」と思ってくれる人たちが増えることが、人口を増やす前段階として考えられる。そういう人たちが週末来て遊んでいく。そうすると、その人たちが遊んでいる、生活している姿を見て、豊能町に対する見方が変わる。その見方に対して、豊能町に住んでいる人たちも「こういう変わり方ならいいよね」と、お互いの姿が生活している中で見えてくる。これが大事で、次第にまちの進むべき方向が見えてくる。

〔委員〕 スマートシティや、いろいろなキーワードになるようなものを進めていくことで、豊能町の魅力として活かしていけるのではないかと。基本施策もいろいろと示していただいたが、それらを合わせたものが将来像となれば良いのではないかと。

- [委員] 基本施策は良くできていると思うが、その基本施策を実現していくときの将来像が迫りに欠ける。基本施策を活かすかたちで将来像を作ってほしい。
- [委員] 重要なことは全部出ているので、あとは整理の仕方と、事務局が説明しやすい言葉を選べば良いのではないか。あるべき姿と実現できる姿、その間のことが施策で埋められているというような形にすれば良いと思う。
- [委員] スマートシティは国から出てきた言葉だが、こういう言葉は3年ぐらいで変わることが非常に多い。案3を選んだ場合、町として10年間持ち続ける覚悟が非常に必要になる。いつの間にかその言葉がなくなってしまう危険性もあると案じている。
- [委員] スマートシティというのは、多かれ少なかれ、どこの市町村もやっていくと思う。それよりも、里山、緑。住んでいる方には当たり前のことかもしれないが、外から見た豊能町の魅力はそこにもある。違う角度から見ると、昔の里山は手を入れて健全に保たれていたが、今はほったらかしにされている。これが、国内の木材が見直されて少し変わってきている。時代は繰り返されるのだと思う。計画ではここ10年を見るのだが、もう少し長いスパンで見て将来像を決めていくべきなのかなと思う。
- [会長] 計画は10年を目標に作っているが、将来像は10年で作り得るものではない。むしろ20年、30年しないと将来像として光り輝いてくるようなものはできないと考えるべき。2050年ぐらいに「豊能町言えば何とかタウンだ」と言われるものを作っていくかといけない。
- [委員] この町の財産は緑。日本全国、スマートシティ化しないと生活しにくくなるだろうというのは、ワクチン予約の時にも思った。緑と共生しながらスマートシティづくりをするというのは、大阪市内にはない強みだと思う。まちが目指しているところを住民が理解し、意識づけ、モチベーションを高める活動が今まではなかったように思う。何か魅力があれば、人は来るのではないかと思う。
- [委員] 会長と事務局でもう一度、今までの意見を集約し、案を作ってください、最終決定をするという感じでどうか。
- [会長] 固めていかないといけない時期になっているので、いくつかの案を出すことはできない。この案でいきたいというような進め方になるが良いか。
- [委員] 「住み続ける」というのは、あまり意味がないと思う。変わっていけばいい。15,000人の人口がある程度コンスタントに、入ってくる人、出ていく人のバランスが取ればいい。「素晴らしいな」と思う人が入って来られるまちであれば、出ていく人がいてもいい。ずっと住み続けると、今の豊能町みたいに高齢化になるのではないかと思う。そのあたりを考えてもらって、最終的に住民と役場が一緒になって、ちょっとでも上に上がれるような形が一番いい

いと思う。将来像はお任せする。

〔会 長〕 将来像を作っても、すぐにみんなが動き出せるかと言うと、そうではない。意識が変わっていかないと、町の職員も住民も変わっていかない。みんなが変わっていく中心になるのが将来像の役割。少しずつ変わっていったら。それに対して、みんなの力が集約していけるというのが大事だと思う。次回、言葉として提案させていただく。

〔会 長〕 土地利用に関して、ご意見は。

〔委 員〕 役場周辺に、町の拠点になるものを整備する構想を入れていくのも一つではないか。空き家が全国で 800 万戸ほどある。ほかと同じような定住促進をしても、入って来ないのが現実だと思う。

〔委 員〕 拠点づくりは非常に大事。豊能町を通り抜ける時に役場周辺が光っていたら、「豊能町に来たのだな」ということが通っている人に分かる。それはすごく大事だと思う。

〔委 員〕 豊能町の周辺で最近すごく変わったことでは「箕面森町」がある。箕面森町は豊能町に囲まれている地域。工業用地や商業施設などができ、住民も増えている。この活力をうまく豊能町の中で広域的に考えて何かできないか。

〔委 員〕 牧地区は、ちょうど農業基盤の活性化計画を進めている。農地区域ではあるが、計画段階から交流施設等を入れることによって、施設を呼び込むこともできる。景観づくりや農地共有も考えている。

〔委 員〕 能勢町、猪名川町の辺りまでは、実際に周回で歩いたりサイクリングしたりできる。そういう周りとの関係を入れてもらえると進みがいいと思う。

### 3. 《議事》その他

(事務局) 基本計画の進捗状況を鑑み、審議会の回数を 1 回増やし、9 月、11 月、1 月に開催したい。基本計画の案は、8 月末までにお示しするので、次回審議会までにお目通しをお願いする。

### 4. その他

(事務局) 次回は 9 月 15 日 (水) 午後 2 時から。

### 5. 閉会

(1) 午前 11 時 48 分に閉会した。

本議事録にかかる会長の内容確認・署名

本議事録について議事内容と相違ないことを確認する。

豊能町総合まちづくり計画審議会会長

会長署名